

# 人として生まれ 人と関わり 人を育て 人に育てられる 人間 ～「キャリア教育」に重ねて～



那覇市副市長 前那覇市教育委員会教育長

城間 幹子 / しろま みきこ

昭和26年1月20日に沖縄県島尻郡伊是名村で生まれる。

昭和48年に国立宮城教育大学中学校教員養成課程国語専攻を卒業し、千葉県市川市立第四中学校で教員をスタート。昭和61年から琉球大学附属中学校、平成9年から那覇教育事務所指導主事、平成14年から那覇市立鏡原中学校校長、平成17年から香港日本人学校中学校校長、平成21年から那覇市教育委員会学校教育部長、平成22年から那覇市教育委員会教育長などを歴任。平成26年から那覇市副市長に就任し、現在に至る。

## <はじめに>

私は、これまでの人生を振り返ったとき、表題の言葉で表したいと思った。職業として「教師」を選択するときから「ヒト・人・人間」を考えることは、私の原点であったように思う。「悩み、のたうち回る人間」の「行動・言動・心のひだを理解できる人間」になりたいと思ったからであった。教職を終えるとき、また教育行政に関わることになってもそれは変わらなかったといえる。

私は「人組」が好きである。年度ごとに、適材適所に人を配置することは、その年の業績の成否に関わるスタートの作業である。宮大工に次のような口伝があることは、法隆寺や薬師寺を復建した宮大工棟梁の西岡常一氏によって多くの方に知られており、多くの経営者や学校長が共感して引用している。私もその一人である。

塔組は木組 木組は木の癖組  
木の癖組は人組 人組は人の心組  
人の心組は棟梁の工人への思いやり  
工人の非を責めず 己の不徳を思え

「塔」を組織、「木」を人の個性と重ね、「組」はその関わり、いわば人間関係

構築作業ととらえることができるだろう。

また、私は年度初めに職員に対して所感を述べるときに、「ジグソーパズル」を引用することもあった。フレームが組織の全体としたならば、ピース一つひとつが人材である。それは誰にも変わることをできない

存在である。しっかりと「個性」をもって、全体の一部としての役割を果たすのである。

一方、組織においては、「変われる自分と変わらない自分」をもつことも大切なことだとも説いた。自分自身の中で、哲学を構築することやキャリアを積み重ねることは、人生の厚みをなすものとして大いに結構なことである。しかしながら、自分以外の相手がいる社会においては、頑なに構えていてはチームが組めないことになる。柔軟に「変われる自分」を残して対応したい。教育行政においても「寄り添う」ことと「堅持すること」を見極めた対応が求められていると感じている。

## <キャリア教育：課題への対応>

この2年間、私は特に「キャリア教育」に関わる事が多かった。立場上求められたのであるが、私自身にとって違和感のない、まさに興味関心度の高い分野であったので、積極的に参加した。県内外における講演・講話の拝聴、パネリストとしての参加、円卓会議等々である。本市のキャリア教育の課題解決のために対応策を模索している中、次の4つの部署の動きがあった。その「点」の動きを活用したいと考えた。

①沖縄県商工労働部：沖縄県産業・雇用拡大県民運動の一環として「グッジョブ・サマースクール」が那覇市立の小学校で開催された。具体的には地域の方々に様々な講座の講師や運営スタッフとし

てご参加いただくことにより、地域の「絆」を育みつつ、地域全体で子どもたちの「未来」を考えていく「場」づくりとなった。

②那覇市市民協働推進課：「協働のまちづくり」に関わる市民を「協働大使」に任命し、まちづくりの核となつていただく取組である。（つなぎ・つながるしくみ）

③那覇市教育委員会：学校教育における「キャリア教育の推進と体制づくり」（カリキュラムへの明文化等）

④那覇商工会議所青年部：教育支援（協働のまちづくり）の取組。平成24年度より、那覇市商工会議所青年部にて「協働のまちづくり室」が設置され、沖縄の未来を担う子どもたちの育成（教育支援）を目的に「キャリア教育支援活動」が開始された。そして平成25年8月、那覇商工会議所青年部教育交流委員会が文部科学省委託事業「地域キャリア教育支援協議会設置促進事業」を受託した。文部科学省は委託先として「……前略……ただし経済団体等に委託する場合には当該団体に所属する企業のみには偏らないように、できる限り幅広い企業等の参加を促す仕組みを整えていること、また、地域の都道府県又は指定都市の教育委員会が実質的に関与・協力していることを要件とする。」としている。

本事業受託をきっかけに、将来の沖縄県を担う人材として「学校・地域・企業・行政」がベクトルを一致させて取り組むことにより、那覇市の子どものキャリアアップに資する強力な推進力になるだろう。本事業のキックオフとして、平成25年8月に円卓会議が開催された。那覇市教育委員会教育長、キャリア教育コーディネーターや若年者就労支援機関、那覇市PTA連合会会長、地元新聞記者が着席者として参加し、地域（企業）が主体となるキャリア教育支援体制の実現に向けて大きな一歩を踏み出した。

## ＜まとめ＞

那覇市の「まちづくりの基本理念」は次のとおりである。

「なはが好き！みんなで創ろう、子どもの笑顔が輝くまち」  
～亜熱帯の自然と文化が息づく、自治・協働・平和都市をめざして～

（「第4次那覇市総合計画：2008～2017」より）

この理念が生かされた「地域づくり」「学校教育」が、

「キャリア教育」を通して展開されるだろうとイメージしている。また、キャリア教育を推進するに当たって、タイミングよく人を得る事ができたと考えている。すべてがいい方につながり、「つながりのありがたさ」を実感している。まさに「人間」の中に生かされた「人」のつながりである。その力を活用して、学校と地域・学校と地域の企業が、お互いに需要と供給を理解し合い、協力関係を結ぶことができるために、行政も力を尽くしたい。本事業の受託は「那覇市のキャリア教育」に強力な推進力を得ることになった。しかし、まだ組織的な取組とはなっていない。今後は「点から線に、線から面に、そして立体へ」と、豊かに積み上げていくことに力を尽くしたい。

